

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年3月13日
【四半期会計期間】	第42期第3四半期（自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩田 弘三
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	(代表)(078)435-2800
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部长 伊澤 修
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	(代表)(078)435-2800
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部长 伊澤 修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期連結 累計期間	第41期
会計期間	自平成25年5月1日 至平成26年1月31日	自平成24年5月1日 至平成25年4月30日
売上高(百万円)	37,394	48,835
経常利益(百万円)	1,338	1,905
四半期(当期)純利益(百万円)	759	881
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	763	967
純資産額(百万円)	23,095	22,863
総資産額(百万円)	27,789	28,851
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	57.15	66.36
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-
自己資本比率(%)	83.1	79.2

回次	第42期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年11月1日 至平成26年1月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	32.94

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は前連結会計年度より連結財務諸表を作成しておりますので、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の主要な経営指標等については記載しておりません。
3. 売上高には消費税等を含んでおりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年5月1日～平成26年1月31日）におけるわが国経済は、政府や日銀の経済・金融政策により長引く円高が是正され、個人消費や設備投資が持ち直し景気は穏やかな回復の兆しが見られつつあります。食品業界におきましては円安等により原材料価格の上昇が継続しており、2014年4月の消費税増税による個人消費の落ち込み懸念増大等先行き不透明な状況が続いております。また全国百貨店売上高は、株高やボーナス支給額の増加を背景にクリスマスを中心に高級品において活発な動きが見られ好調に推移しましたが、そうざい部門ではコンビニエンスストア等の他業態におけるそうざい販売強化による影響もあり、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は「The Mirai Salad Company」を目指し、基本品揃えや積極的な販売、丁寧な販売等を引き続き行ってまいりました。年間で最大の繁忙期であるクリスマス・年末年始には、晴れの日のニーズに合わせて定番商品をグレードアップした贅沢なサラダ等を取り揃えたことで当期もお客様からの評価を頂くことができました。また、インターネットによる受注・販売を試験的に導入したほか、香港の「City super」にRF1の展開を始めるなど新たな取組みにも着手いたしました。しかしながら厳しい経営環境の下、台風・大雨等の天候不順も影響し計画した売上高を確保することができませんでした。利益面におきましても売上計画を達成できなかったことやエビ等の価格高騰、円安等による原材料価格の上昇が続いたことにより計画を下回る状況で推移いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は37,394百万円、営業利益は1,308百万円、経常利益は1,338百万円、四半期純利益は759百万円となりました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		平成26年4月期 第3四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	
RF1		百万円	%	%
	サラダ	15,921	42.6	-
	フライ	6,123	16.4	-
	その他そうざい	4,999	13.3	-
	小計	27,043	72.3	-
神戸コロッケ		2,585	6.9	-
いとはん		2,610	7.0	-
融合		601	1.6	-
ベジテリア		1,521	4.1	-
グリーン・グルメ		2,862	7.6	-
その他		168	0.5	-
合計		37,394	100.0	-

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、クリスマス・年末年始に向けて鴨肉や牡蠣を使用したサラダを販売し、高付加価値商品の充実を目指しました。旨味を存分に味わえるよう素材にこだわり開発した「ローストビーフとグリル野菜のサラダ」や、芳醇な味わいの「北海道産生ハムとルッコラの華やかサラダ」等、食卓を華やかに彩る商品の販売を行いました。その結果、売上高は27,043百万円となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、コロッケをより美味しく、より楽しく提供するために季節に合わせた商品の展開に努めました。クリスマスには期間限定で「とろける牛タンシチューコロッケ」や「蟹爪のクリーム包み」等の特別商品を販売いたしました。その結果、売上高は2,585百万円となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、和そうざいブランドにとって最大の商戦であるお正月に向けて、家族が集う時期におすすめの豪華な商品の提案を行いました。素材の旨味をしっかりと味わっていただける「炙りまぐろと香味野菜の和さらだ」や、お祝いにも出される出世魚のぶりを使用した「長崎県産天然ぶりの甘辛揚げ」等がお客様から好評を得ました。その結果、売上高は2,610百万円となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、年末に1年間のご愛顧に感謝して「1食分の野菜が摂れる！濃厚健康バランス39(サンキュー)品目」を販売し、健康への関心の高いお客様にご好評をいただきました。また、寒い時期に需要の高まる持ち帰り用のスープは、具沢山の魚介のチャウダーやフルーツを使用した温かいデザートスープ等、品揃えを増やしました。その結果、売上高は1,521百万円となりました。

なお、前連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。また、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(注)上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は121百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。また、経営戦略の現状と見通しにおきましても、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から変更はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループは現在の事業環境に基づき最善の経営方針を策定することに努めております。今後も当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増すものと予想しております。このような状況を踏まえ、更なる業務改善や業務効率化等に取り組んでまいります。なお、具体的な内容につきましては、前事業年度の有価証券報告書の「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」をご参照ください。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年3月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,394,374	13,394,374	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	13,394,374	13,394,374	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年11月1日～ 平成26年1月31日	-	13,394,374	-	5,544	-	5,861

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年1月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 113,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 13,268,500	132,685	-
単元未満株式	普通株式 12,274	-	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	13,394,374	-	-
総株主の議決権	-	132,685	-

- (注) 1. 「完全議決権株式（その他）」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。また、「議決権の数」の欄には当該株式に係る議決権の数12個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15番地2	113,600	-	113,600	0.85
計	-	113,600	-	113,600	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。なお、当社は前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、比較情報である前第3四半期連結累計期間（平成24年5月1日から平成25年1月31日まで）の四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書は記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年11月1日から平成26年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年5月1日から平成26年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,903	7,523
売掛金	3,735	4,258
製品	61	65
仕掛品	70	73
原材料及び貯蔵品	203	441
その他	512	384
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	13,484	12,746
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,429	7,310
土地	2,948	2,948
その他(純額)	2,100	2,005
有形固定資産合計	12,477	12,264
無形固定資産		
その他	630	612
無形固定資産合計	630	612
投資その他の資産		
その他	2,293	2,176
貸倒引当金	34	10
投資その他の資産合計	2,259	2,166
固定資産合計	15,367	15,043
資産合計	28,851	27,789
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,179	1,095
1年内返済予定の長期借入金	222	31
未払法人税等	606	-
賞与引当金	492	253
その他	2,848	2,683
流動負債合計	5,349	4,064
固定負債		
長期借入金	-	102
その他	638	527
固定負債合計	638	629
負債合計	5,988	4,693

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	11,560	11,788
自己株式	209	209
株主資本合計	22,756	22,984
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	72	55
為替換算調整勘定	35	56
その他の包括利益累計額合計	107	111
純資産合計	22,863	23,095
負債純資産合計	28,851	27,789

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
売上高	37,394
売上原価	15,900
売上総利益	21,493
販売費及び一般管理費	20,185
営業利益	1,308
営業外収益	
受取配当金	5
保険配当金	14
貸倒引当金戻入額	12
その他	16
営業外収益合計	48
営業外費用	
為替差損	12
その他	6
営業外費用合計	18
経常利益	1,338
特別損失	
賃貸借契約解約損	7
減損損失	0
特別損失合計	8
税金等調整前四半期純利益	1,330
法人税等	571
少数株主損益調整前四半期純利益	759
少数株主利益	-
四半期純利益	759

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	759
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	17
為替換算調整勘定	21
その他の包括利益合計	4
四半期包括利益	763
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	763
少数株主に係る四半期包括利益	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間
(自 平成25年5月1日
至 平成26年1月31日)

減価償却費 1,344百万円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月30日 定時株主総会	普通株式	292	22	平成25年4月30日	平成25年7月31日	利益剰余金
平成25年12月12日 取締役会	普通株式	239	18	平成25年10月31日	平成26年1月20日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
1株当たり四半期純利益金額	57円15銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(百万円)	759
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	759
普通株式の期中平均株式数(株)	13,280,708

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年12月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....239百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....18円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年1月20日

(注) 平成25年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年3月5
日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝池 勉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊東 昌一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年11月1日から平成26年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年5月1日から平成26年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の平成26年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。